



創業・移住支援ポータルサイト「うきはのはなし」特別編 大学生による市内事業所インタビュー

豊ハウス産業株式会社・株式会社堤木材

Q. 豊ハウス産業様の特徴や強みを教えてください

現在の製材所の生産は、部材ごとに専門化され分業しているようになっていますが、当社では、様々な部材に対応できるようになっています。また、直接お客様（工務店）と接するため多くの情報をお客様と取引することにより新事業や新商品製作に挑戦しやすいという強みもあります。

Q. どんな時に仕事のやりがいを感じますか

物を売るということはお客様から信頼されると

1971年に堤木材、1983年に豊ハウス産業を父が創業し、私が2代目です。現在の事業内容は、地域での木材の卸しや、コインランドリーの運営、不動産業を行っています。不動産業については、当初は、木材を販売するためでもあります。が、地域工務店の受注支援も考え土地の販売を行い、大手ハウスメーカー絡みの土地だけの販売はお断りしていました。しかし、流通の変化により、現在は土地のみの販売も行っています。コインランドリーは、うきは市内に3店舗、田丸・大刀洗にそれぞれ1店舗で計5店舗展開しています。

Q. 創業からの歴史と現在の事業内容を教えてください

豊ハウス産業株式会社
株式会社堤木材
代表取締役 堤 仁さん



うきは市では、創業・移住支援ポータルサイト「うきはのはなし」の中で市内創業者・事業所の紹介をしています。今年度は、広報うきはでも久留米大学生による取材記事を掲載します。うきは市の様々な産業の魅力をお届けします。

■トップインタービュー ■

うきは市では、創業・移住支援ポータルサイト「うきはのはなし」の中で市内創業者・事業所の紹介をしています。

いうことです。人や会社が信頼されていないければ、物は売れません。その信頼を直に感じることができるのが嬉しいです。実際に私が社長に就任してから2年ほど低迷した時がありました。軌道に乗って自分がやったことが認められた瞬間がとても嬉しく、この仕事のやりがいを感じました。

Q. これからどんなことに挑戦していくたいと思っていますか

建築の木材加工をCADを使い工場で行うプレカット事業に取り組みたいと考えています。現在はプレカット会社に加工を委託しているのですが、自社で展開したいと考えています。

現在、息子が自然素材を使つた家づくりの建設会社で仕事をしています。そこで学んだ知識を活かし、木の見える家づくりの提案ができるようになればと考えています。

Q. うきは市の方に何か伝えたいことはありますか

うきは市にはまだ知られていない、すごい人や良い場所がたくさんあります。私どもも、多くの人に木の良さを知つてほしいと思い、木工体験ができる「木ん家」というカフェや工場見学などを積極的に行っています。身近であつた木材が遠くの存在になろうとしている今、大人から子どもまで木に親しみを持つてもらう良い機会を提供したいと思っていますので、ぜひご参加ください。

子どもに優しい、木のぬくもりを活かした安全な玩 具も好評を得ています。

うきは市に住んでいるときはなかなか魅力はありませんが、都市にも自然にも近く、温泉も気づきませんが、都市にも自然にも近く、温泉も

うきは市には多くの魅力があります。新しく住民と一緒に暮らす移住者も多いです。最近では首都圏から移住者も多くなってきています。新しい住民と交流する移住者パーティーや企画も現在考えています。人情あふれる豊かな街であることが、うきは市の最大の魅力だと思います。

会社名 豊ハウス産業株式会社
所在地 うきは市浮羽町浮羽568番地1
電話 0943-77-4685
FAX 0943-77-8135
HP <http://www.yutakahouse.com/>

この記事に関する問い合わせ先
うきはブランド推進課商工振興係
TEL:0943-76-9095
取材協力：筑後信用金庫

創業・移住支援ポータルサイト

うきはのはなし

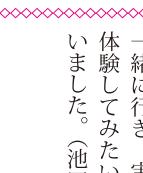
検索



久留米大学2年
江越 優香



久留米大学2年
池田 航



久留米大学2年
江越 優香



久留米大学2年
森田 紗里加

★取材を終えて★

家庭に木があることで温もりを感じました。堤社長は気さくな方で、うきはの方々に少しでも楽しんでいただきたいという気持ちが、お話をされている時の表情から伝わってきました。私も堤社長のような人情溢れの人間になりたいと思いました。（森田）

堤社長のお話を伺い、木の良さを改めて実感しました。私は最近一人暮らしを始めたのですが、実家にいた時のように、家の中で見えるところに木材を目にすることなく、寂しく感じていました。今回の取材で木の温もりの大切さを改めて実感しました。木工体験ができる「木ん家」というお店には興味を持ちました。今度は友人と一緒に行き、実際に体験してみたいと思いました。（江越）